

# AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2019.7) 平成30年度:104.

認知症患者の褥瘡 認知症患者における褥瘡ケアの課題

日野岡 蘭子

## シンポジウム 認知症患者の褥瘡 認知症患者における褥瘡ケアの課題

旭川医科大学病院 看護部 日野岡蘭子

褥瘡は外的要因によって発症するとされており、予防策は栄養状態の整えなども含めて患者本人が認識する必要がある。予防行動は必ずしも患者にとって楽な選択のみではない。認知機能が低下した患者においては、予防の必要性について理解を得ることが至難であることも多い。

急性期病院である当院の特徴として2点が挙がる。侵襲の大きい長時間手術後の譫妄状態による予防の難しさと、他施設から褥瘡を持ち込み転院してくる患者への予防ケアである。

超高齢化を迎えた現状で、従来では想定しえなかった高齢者への高侵襲の手術が行われ、術後、譫妄を来す患者の増加も実感している。現状では、PCPS等の重要なラインに対する抜去防止等、生命を護るために講じる抑制等の安全対策が、更なる認知機能の低下を招き、皮膚への過剰な負担を生じていることに対し、抜本的な解決策はないのが現状である。

また、施設や在宅からの認知症患者の持ち込みによる褥瘡も増加しており、入院期間の短い急性期病院で行える対策は限られる。目標は悪化予防であり治癒には至らない。再び元の生活基盤へ戻る状況に対し、他施設との情報共有、地域で看護、介護を担う人材への情報提供と教育が課題と考える。